

取組事例

(**所定外労働削減**)・年休取得促進・多様な正社員・朝型の働き方・テレワーク)

企業名：株式会社オーザック	所在地：広島県福山市
社員数：38名	業種：製造業



取組の目的：

- ①社員の頑張りを評価する客観的な基準がないために公正な評価が難しく、社員のモチベーションが上がりにくい。
 - ②各人の業務量が見える化されていないことで業務配分に偏りが生じ、緊急時に応援が頼みにくい。
- といった課題の解消に向けて取り組む。

取組の概要：

〈現在の取組〉

所定外労働削減の取組

○業務効率の向上と多能工化の推進による業務の平準化

- ・製造部では、中期経営計画をもとに現場が必要と判断した技術・能力についてOJT計画を作成し、PDCAサイクルを回して質を高めることで、業務効率の向上を図っている。
- ・工場内に保有資格を掲示し見える化すること、国家試験の合格者に報奨金を支給することにより、社員の能力向上に向けた意欲と達成感を高めることで多能工化を推奨し、業務の平準化を目指している。

○仕事の見える化と標準時間の設定

- ・客観的に1日当たりの1人の分担量が算出できるよう、作業の開始から終了までの工程をリストアップした加工指示書を作成し、仕事を見える化した。これにより、特定の社員に業務が集中することが減り、長時間労働の抑制につながっている。また、各工程に標準時間（目標時間）を設定することで、常に時間を意識するようになり、作業効率が向上している。
- ・標準時間内に作業が終わらない場合は、問題点を検証し、その原因が社員の作業能力不足のときは個別に研修の対象としている。

○コミュニケーションによる相互理解の促進

社員同士の認識の違いによるミスを防止し、部署内や部署間の連携をスムーズにするため、部署内のみならず、他部署とコミュニケーションを図る親睦会費用を設置し、その会費を会社が助成している。

現状とこれまでの取組の効果：

○上記の取組により、6年前に比べ所定外労働時間数、年次有給休暇取得日数に以下の効果が表れた。

所定外労働時間数（1ヵ月1人平均）・・・63.8%減少（8時間→2時間54分）

年次有給休暇（年1人平均取得日数）・・・3.3日増加（1日→4.3日）

○平成24年1月より完全週休2日制を導入

○標準作業時間があることで常に時間を意識するようになり、生産性が向上した。

○自分にしかできないという業務が減り、年休取得日数が増加した。

○客観的に1日1人当たりの作業可能時間が算出できることにより、各部署、社員の対応可能量、対応可否、納期日の算出、受注可否の判断が容易になり、顧客対応がスムーズになった。

○円滑なコミュニケーションにより、認識の違いによるミスが減り、業務の効率化につながった。

(H27.4)